



リ/ :::::::::::::: \  
 :::::::::::::: / ' :: = | ± ± ± | = = = - / , ' :: ' \ \ :::::::::::::: }  
 :::::::::::::: \ ; / | ; :: - = : ! ± ± ± ; = = , - \ ; ' ::::::::::::::  
 :::::::::::::: \ ::::::::::; - '  
 :::::::::::::: / L \_\_\_\_\_ \ / ' , - ' :: ' : \ = i > ! :::::::::::::: ; . - ' '  
 / < = = = \_ r = ≧ ; - ' ; - ' : ' \_ ; ; :: ' --- ' " '  
 ' | ::::::::::; | ! \ - ; U " ' ::::::::::; ' ' !  
 ' : t ' ,  
 / . :::::::::::::: | :::::::::::::: | :::::::::::::: \  
 / . :::::::::::::: = = i ! :::::::::::::: i

「あ、ありえん！」  
悪魔合体が終わり、自分の体を見た彼女はその言葉を発して硬直した。

それもそうだろう、  
彼女の体は以前の全身タイツから感じられるエロチシズムたっぷりの官能的な熟れた女体の肉  
体ではなく、  
とりあえず何かあったら敵組織の仕業にしておきそうな、そんな感じのもうこいつだけでもいい  
んじゃないかのヒーローのソレへと変じていたのである。

⋮

「……………ト、トリアエズ荷物ノ確認をシヨウ、ソウシヨウ」  
数分後、現実に戻った彼女はとりあえず現実から目をそらすことにした。  
また、自分がこの様な姿であることを認めるよりは支給品の確認をしている方が楽であると気づ  
いたのである。

「サア、支給品ノーツ目八何カナー？」  
デイパックの中に手を入れ、適当に引き抜く。

それは支給品というにはあまりにも大きすぎた  
大きくぶ厚く重くそして神々しすぎた  
それは正に玉座だった

「ナ、ナンダコレハ？車輪ノ付イタ玉座？」  
デイパックのサイズ的に入るわけのない支給品、『サウザーのバイク』を見て圧倒されるニム。

「……………ヨシ、トリアエズ玉座ニ座ロウ」  
倍プッシュ、彼女は再度現実から逃避した。

「ウワァ、案外フカフカダァ」  
贅を尽くされたサウザーのバイクの座り心地に、落ち込んでいた気分が癒されて行く。  
「スコシ、驚イタケドコノ支給品八当タリダッタノカモシレナイナァ」  
付属の説明書を読みながら、一人呟く。  
どうやら、前の部分にある座席をいじるとこの巨大な玉座は動くようなのだ。

「サア、次ノ支給品八何カナァ？」  
悪魔化した自分の精神が癒されて行くのを感じながらデイパックに手を突っ込み、支給品を取り



ニムは魔人 ブラックライダーになりました。ブラックライダーの初期スキルを使うことができます。

ニムの外見は仮面ライダーBLACK RXです。

【あぶない水着@DRAGON QUEST3】

文字通り、面積が危ない水着。  
というか布。女性専用である。

【サウザーのバイク@北斗の拳】

一言で言えば、玉座のついた巨大なバイク。

029:[マダカレークッテナイデショー](#)

029:[マダカレークッテナイデショー](#)

015:[超重甲！ ビーファイター！（タイトルに意味はない）](#)

投下順 031:[『無名』](#)

時系列  
順 061:[猛る死と書いて『タケシ』](#)

ニム 043:[血も涙も、故郷（ここ）で乾いてゆけ](#)

—

